

公表 事業所における自己評価総括表

| | | | | |
|----------------|------------------------|----|------|----|
| ○事業所名 | 児童発達支援ほっぷ | | | |
| ○保護者評価実施期間 | 令和7年10月1日 ～ 令和7年10月31日 | | | |
| ○保護者評価有効回答数 | 対象者数 | 7人 | 回答者数 | 7人 |
| ○従業者評価実施期間 | 令和7年11月1日 ～ 令和7年11月30日 | | | |
| ○従業者評価有効回答数 | 対象者数 | 6人 | 回答者数 | 6人 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 令和8年2月10日 | | | |

○分析結果

| | | | |
|---|--|---|---|
| | 事業所の強み(※)だと思われること。※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
| 1 | 専門職と連携を図り、一人一人の発達段階に合わせたプログラムを提供することができる。 | 職員間の連携を密にし、評価と支援内容の見直しを定期的に行っている。 | 専門職との連携を深めるとともに保護者との情報共有も強化し、家庭と事業所が一体となって子どもの発達を支える体制を整える。 |
| 2 | 運動療育を中心とした支援体制を整えており、感覚統合の視点を取り入れた活動を提供することができる。 | 楽しみながら身体機能・社会性・自己肯定感を育めるように支援している。 | 専門職との連携強化や職員研修の充実を図っていく。 |
| 3 | 毎日固定化されない活動によって拒否なく意欲的に活動に取り組んでいる。 | 柔軟な活動構成の中で子どもの主体性を育み、成功体験を積み重ねられるように支援している。 | 子どもの興味や発達段階をより丁寧に把握し、個々に合った活動のバリエーションを増やしていく。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 事業所の弱み(※)だと思われること。※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
| 1 | 活動スペースが狭く感じる。 | 大型のすべり台やボールプールを配置していることにより狭く感じられると思われる。 | 大型遊具は移動可能であり、活動内容によっては移動させてスペースを確保している。 |
| 2 | 保護者に十分な情報提供ができていないと思われる。 | 保護者に向けた情報提供が連絡帳のみとなる方もおり、発達の詳細を十分に伝えられていない。 | 保護者との面談や懇談会の開催回数を見直しを検討していく。 |
| 3 | 各緊急時のマニュアル策定、訓練実施について十分周知できていない。 | 年1回通信やHPで周知しているが、年度途中から利用される方には伝わっていない。 | 周知頻度や周知の方法を検討していく。 |